Ⅰ．事業の状況

1　総　括

当研究所は、昭和41年７月の設立以来、わが国教育の刷新充実に寄与することを目的として、半世紀以上にわたり、研究助成等の事業を進めております。平成24年には内閣府から公益財団法人に認定され、現理事長の指導のもとで、医学・医療ｅ－ラーニングや世界点字作文コンクールなど新たな分野へ公益事業を拡大しました。

事務所を築地の地へ移して２年目の本年度は、次の事業を行いました。

◎　小・中学校や研究団体への研究助成では、小学校４校、中学校２校、３研究団体、１学会に助成を行いました。研究のキーワードをみると、「子どもの視線が交わる学び合い」、「共同的な読解学習」「主体的な学びや表現力を育む」「メディアへの接触時間のコントロール」「特別支援学校でのプログラミング的思考とテクノロジーの活用」「スマートフォンの適切な活用と安全なつきあい方」「技術・家庭科が目指す実践的態度の育成」「生徒が生き生きと学ぶ算数・数学的活動」「大学から地域へ。科学的リテラシーを育む」「家庭教育に関する理論的・実践的研究」などでした。

◎　前年度の研究成果は「教育研究情報」誌に掲載し、教育関係の諸機関・諸団体に教育資料として寄贈し、成果の普及を図りました。

◎　野外教育では、独自に開発した教材（アイオレシート）を使い、自然体験活動の指導者を養成する講習会を、文部科学省などの後援も得て、複数回開催しました。また、「野外教育情報」ニュースレターを年２回発行し、関係諸機関・諸団体等へ寄贈しました。

◎　医学・医療分野では、ｅ-ラーニング推進の核となっているＭＥＤＩ＠（メディアット）システムにより、以下の支援を行いました。

日本小児臨床・アレルギー学会、日本小児アレルギー学会の総会・学術集会等の講演・講義を収録し配信しました。

専門医養成のためのｅ-ラーニングとしては、日本癌治療学会や日本泌尿器科学会に対して継続してシステムの運用・管理を行っているほか、日本がん治療認定医機構のコンテンツ制作を行いました。

新たな学会へのｅ-ラーニング導入では、日本リハビリテーション医学会、日本外科学会、日本薬局共創未来人材育成機構、日本小児血液・がん学会などに支援・助力を行いました。

◎　視覚障害者を対象とした「世界点字作文コンクール」の共同主催事業は、第16回目を実施し、国内・海外部門でそれぞれの優秀作品を表彰しました。入選作は点字本にて公共図書館に寄贈しました。

今後とも公益認定事業の中で着実な展開を図り、実りある成果を挙げていく所存ですので、ご指導とご支援をお願い申し上げます。

2　助成等事業概要

A．研究実践校への助成

《時代の課題に応える研究、教育内容を深める研究、地域に根ざした意欲的な研究に取り組んでいる学校に対して、公募のうえ、助成を行った。》

《小学校》

① 授業研究　福島県　須賀川市立 長沼小学校　（冠木　誠 校長）
〒962-0203　福島県須賀川市長沼字殿町８５

テーマ　**『子どもの視線が交わる学び合いの実現』**
── 学級と授業者の個性を生かしたアプローチから ──

要　旨　変化の激しい社会に対応していく人材を育てるには、従来型の教師主導の授業から子ども達の学び合いによる主体的で深い授業への転換が必要と考え、校内研究により、子どもの視線が交わる授業を目指した。「仲間とつながりながら自ら学びとる力が育つ授業をつくる」、「仲間とつながる学びを通して学びに向かう生き方を育てる」、「学び合いの中で思考力・判断力・表現力を育てる」ことに取り組み、指導者側の意識改革も進んだ。

② 国語科　静岡県　静岡市立 東豊田小学校　（藤巻哲男 校長）
〒422-8005　静岡県静岡市駿河区池田４９１－２

テーマ　**『一人一人の読解力を育むノート指導・板書のあり方の研究』**

要　旨　一人一人の主体的な取り組みを促し、共同的な読解学習を通して「深い学び」としての読み取りを実現させるノート・ワークシート、板書の効果的な方法を明らかにする活動を行った。「つかむ・もつ→深める・広げる→まとめる」という授業過程を意識したノート・ワークシートの活用、付けたい力を明確にしたワークシートや子どもの思考の筋道を補助するワークシート等の工夫、子どもの学びの筋を可視化する板書などを実践した。

③ 国語・道徳科　静岡県　浜松市立 伊目小学校　（原田　功 校長）
〒431-1305　静岡県浜松市北区細江町気賀３１２４１

テーマ　**『進んで学び、つないで深め、自分の考えを表現できる子の育成』**

要　旨　今日的課題のひとつである、主体的な学びや表現する力を育むことを目的とする研究。これからの社会で必要とされる資質・能力は、児童が自ら問いに気付き、主体的に学びに向かい、子ども同士がつながり深めたことを自分なりの言葉で表現する力である。自信をもって他者と関わることができる子どもの育成を目指して、授業研究に取り組み、成果を挙げた。

④ 保健・生活・特別活動　島根県　益田市立 吉田南小学校　（菊池貴宏 校長）
〒698-0032　島根県益田市水分町１１－３

テーマ　**『直接体験の楽しさを知り、メディアへの接触時間をコントロールできる児童の育成』**

要　旨　子どもの生活に保護者が関わりにくい家庭環境では、普段の生活でメディアの接触時間を減らすのは難しい。そこで、さまざまな直接体験（ゴミの分別、紙飛行機とばし、折り紙、ひも結び、雑巾しぼり、サイコロトーク、レジ袋三角たたみ。めんこ出し等）や「食に関する体験」（朝ごはん作り、親子調理実習、スーパーでの買い物体験、地域の人と飯ごう炊飯等）を増やし、長時間のメディア接触が人体に及ぼす悪影響についても学んだ。

《中学校》

⑤　情報教育　　東京都　東京都立 石神井特別支援学校　（山本和彦 校長）
〒177-0045　東京都練馬区石神井台８－２０－３５

テーマ　**『知的障害特別支援学校におけるプログラミング的思考力の育成と、子どもたちの創造性・表現を高めるためのテクノロジーの活用』**

要　旨　知的障害のある小学部と中学部の子どもたちが通う特別支援学校。①職業・家庭（情報）の研究実践：プログラミングと情報モラルの研究実践に取り組んだ。体験的に学ぶことで理解を深め、情報活用能力の基礎となる力が育まれた。②プロジェクト型学習の研究実践：中学部１年の５名を対象に、映像制作の実践に取り組んだ。生徒自身で気づいたことを意見に出し合い、次の活動に展開していくようにサイクルを組んで成果を挙げた。

⑥　情報・人権教育・総合的な学習　長野県 上田市立 第四中学校
（高橋幸彦 校長）　〒386-0032　長野県上田市諏訪形１２００

テーマ　**『相手の気持ちを大切にした言動ができる生徒の育成を目指して』**
―ＳＮＳ、ＬＩＮＥ等の適切な活用とメディアとの安全なつきあい方を学習することを通して　―

要　旨　親子でメディアの安全で適切な使い方、正しい知識の共通認識をもち、相手の立場を考慮して正しく利用する力を付けさせるために、さまざまな取り組みを行った。情報モラル教育講座の実施、携帯電話・スマートフォンに関するアンケートの実施、全校パネルディスカッションによる意見交換、文化祭での情報モラルコーナーの設置、人権講演会の実施、保護者向け講演会「心をつなげるメディアの利用」の実施など。

計　１，２００，０００円

B．教育現場への助成

《わが国の教育の刷新・充実に寄与するため、学校の教諭や大学教官等学校現場を主体とした研究団体・学会等に対して、公募のうえ、助成を行った。》

①　静岡県教育研究会（技術・家庭科教育研究部）　（代表者：山田欣也）
〒420-0856　静岡市葵区駿府町１－１２　静岡県教育会館

テーマ　**『学びをつなげることを通して、実践的な態度を育てる授業の研究』**

要　旨　小中が連携し、さらに地域の「人・もの・こと」とつながって学びを深め、技術・家庭科が目指すより確かな実践的態度を育成することを目指した。
８月には湖西新居地域センターにて、講演会、11分科会による研究発表を行った。発表題目は、「快適な衣服と住まい」「材料と加工に関する技術」「エネルギー変換に関する技術」「生物育成に関する技術」「情報に関する技術」「食生活と自立」「身近な消費生活と環境」などであった。

②　新潟県／コンパスの会（新潟算数・数学教育研究会）　（代表者　小畑　裕）
〒950-2037　新潟県新潟市西区大野５６－５

テーマ　**『児童・生徒が生き生きと学ぶ算数・数学的活動の追究』**

要　旨　算数・数学科における、「個に応じた主体的・対話的で深い学びを目指す指導」「基礎的・基本的な学力の定着」「思考力・判断力・表現力を培う算数・数学的活動」「小・中学校９か年を見通した指導の工夫」について、継続して研究を進めた。

③　鹿児島県／鹿児島大学若手教員サイエンスカフェの会　（代表者　飯笹英一）
〒890-8544　鹿児島県鹿児島市桜ケ丘８－３５－１

テーマ　『大学から地域へ　学びの意欲と科学リテラシーを育む教育』
── サイエンスカフェを通して ──

要　旨　鹿児島市内のカフェ、鹿児島大学、鹿児島市内のスタジオ、垂水市の道の駅で計９回開催。「意外と知らない東アジア」「概日時計のメカニズム」「かつお節ってすばらしい」「色いろいろ－ペーパークロマトグラフ」「アンテナはどのように電波を集めるのか」「そもそも大学ってなんだ」「今年のノーベル賞受賞研究」「はたらくを科学する」「鹿児島の味噌のひみつ」などをテーマとし、地域の人々や児童・生徒の学びへの意欲と科学リテラシーの向上を図り、地域内での異世代間のつながりを育んだ。

④　日本家庭教育学会　　会長　中田雅俊（八洲学園大学教授）
〒102-0094　東京都千代田区紀尾井町３－１

テーマ　『家庭教育に関する理論的・実践的研究』

要　旨　本学会は1986年の設立以来、家庭教育に関する学問的研究を促進し、実生活における家庭教育の普及や支援者養成を進めている。メインの大会（第33回）は「家庭教育支援のあり方を考える」を主題として開催。奥明子副会長の挨拶、16名の個人研究発表、福澤光祐氏（文部科学省教育制度改革室専門官）の講演、パネルディスカッションなどを行った。他に「家庭教育研究24号」「家庭フォーラム29号」の発行、家庭教育師資格認定、家庭教育学構築のためのワーキンググループ研究会、家庭教育師・家庭教育アドバイザー交流会、会報発行など。

計　６００，０００円

Ｃ．野外教育活動の推進

《野外教育活動［とくに自然体験活動］のいっそうの充実と推進に向けて、指導者養成の講習会を実施した。また、自然体験活動に関する情報と実践等を集めた「野外教育情報」ニュースレターを発行し、教育関係の諸機関・諸団体に寄贈し、知見の普及を図った。》

○　野外教育活動の指導者講習会の開催

自然の中で、ゲーム的な要素も取り入れ、子どもたちが楽しく自然体験活動を行える指導方法（アウトドアゲーム）の普及及び、野外教育指導者の養成と指導技術の向上を図る目的で実施した。学校教育・社会教育・学生・民間団体の関係者などを対象に、独自に開発したパッケージド・プログラム（アイオレシート）を教材として使用し、指導方法、安全管理、ゲーム創作などを含めて、実習形式で指導した。次の３個所で講習会を開催した。

①　２泊３日コースの講習会　文部科学省・日本キャンプ協会の後援を得て、国立青少年教育振興機構の次の施設において、６人の講師により実施した。１都９県から２６名の参加があった。
平成３０年１０月６日～１０月８日「国立那須甲子青少年自然の家」（福島県西白河郡）

②　１泊２日コースの講習会　北海道において初めて、次の国立青少年教育振興機構の施設と連携して実施した。参加者１３名。
平成３０年１１月１７日～１８日　「国立日高青少年自然の家」（沙流郡日高町）

③　日帰りコースの講習会　長野県において、現地ＮＰＯ法人（やまぼうし自然学校、信州アウトドアプロジェクト）の協力を得て、次の施設で実施した。参加者８名。
平成３０年７月１日　「国立信州高遠青少年自然の家」（長野県伊那市）

計　１，８２１，７２４円

○　『野外教育情報』ニュースレターの発行・配布

野外教育に関する記事・情報を掲載した機関誌ニュースレターを、年２回発行した。平成３０年７月には第８号［特集：ARTと自然］、平成３１年２月には第９号［特集：名前のない時間］を発行して、教育センター・教育研究所、教育委員会（都道府県・主要都市）、青少年教育施設、小・中学校、大学、野外教育指導者・研究者など、約１，２００個所に配布（寄贈）した。

計　１，０１４，３０９円

D．医学・医療教育及び教育技術への研修支援

《医学・医療分野での教育及び教育技術の充実・刷新に寄与するため、インターネットを利用した教育や研修（いわゆるｅ－ラーニング）を計画している学会・医療機関・大学等に対して、ＭＥＤＩ＠（メディアット）システムの導入と運用、データ管理、コンテンツ等の制作と配信などに対して支援を行い、この分野でのｅ－ラーニングの普及・展開をめざした。》

○　総会・学術集会等のネット配信のためのコンテンツの制作

次の各医学会の総会・学術集会での講義・講演を収録・編集して、インターネット上に配信するコンテンツを制作し支援した。

①　一般社団法人日本小児臨床アレルギー学会　第３５回学会

平成30年7月28日～29日に、「原点からの再出発～難治アレルギー疾患のチーム医療～」をテーマに、福岡県福岡市において開催された。「小児ぜん息について」（手塚純一郎）「食物アレルギー～食物アレルギーへの最近の対応について～」（柴田瑠美）など、５講義について収録のうえ配信した。

②　日本小児アレルギー学会 第５５回学術集会

平成30年10月20日～21日に、「小児アレルギー学の進歩と未来への展望」をテーマとして、岡山県岡山市のコンベンションセンター等にて開催された。「アレルギーマーチ源流としてのアトピー性皮膚炎」（山本貴和子）「分子標的薬は小児アレルギー診療に必要か」（森川昭廣）など、２２講義について収録のうえ配信した。
また、学会の小児アレルギースキルアップセミナーに関わるｅ－ラーニングのシステム管理・運用・コンテンツ制作にも協力した。

○　医学会のｅ－ラーニング利用への支援

①　日本がん治療認定医機構の教育セミナーのｅ－ラーニングコンテンツ「がんの診療と倫理」「がん救急」「がんの生物学・分子生物学」「画像診断学」「大腸がん」「肺がん」「放射線療法概論」など３１本を制作した。

②　公益社団法人日本リハビリテーション医学会に対して、ｅ－ラーニングのシステム導入、運用・管理、コンテンツ制作などの支援を行った。

③　一般社団法人日本外科学会に対して、ｅ－ラーニングのシステム導入、運用・管理、コンテンツ制作などの支援を行った。

④　その他、日本小児・血液がん学会、一般社団法人日本薬局共創未来人材育成機構に対して、ｅ－ラーニングのシステム導入、コンテンツ制作などの支援を行った。

○　学会の専門医養成のためのｅ－ラーニングへの支援

①　一般社団法人日本癌治療学会が運営する「がん医療を専門とする医師・チームスタッフのためのｅ－ラーニングプログラム」（CANCER e-LEARNING）のコンテンツの制作と配信を行った。

②　一般社団法人日本泌尿器科学会の専門医単位更新を目的とした講演配信サービスのためのｅ－ラーニングシステムの整備、視聴履歴の管理、コンテンツの制作など、その整備・配信を引き続き支援した。

計　３１，７７３，５５３円

E．研究報告誌の刊行・配布

《前年度に研究助成を行った研究成果を掲載した研究報告誌を年１回発行し、教育関係の諸機関・諸団体に寄贈し、成果の普及を図った。》

『教育研究情報』第５０号（前年に研究助成を行った、研究実践校・研究団体・学会の研究成果と実践報告を掲載したもの）を平成３０年１０月に発行し、教育センター・教育研究所、教育委員会、青少年教育施設、大学、小・中学校（一部）など、教育関係の諸機関・諸団体約８００個所に配布（寄贈）した。

計　６１５，０８４円

F．世界点字作文コンクールへの支援

《視覚障害者の方々に点字と音声の架け橋を築く願いをもって、毎日新聞社点字毎日・オンキヨー株式会社との共催で、第１６回コンクールを実施した。》

国内部門では、応募総数１３０編を選考の結果、最優秀オーツキ賞には京都府の竹保 遙さん、「作詞賞」には青森県の福井宏郷さんが受賞した。

海外部門では、アジア・太平洋地域８か国２３編、西アジア・中央アジア・中東地域１３か国５４編、ヨーロッパ地域２０か国５１編の応募があり、それぞれ選考を行い優秀作品を表彰した。入選作品集の点字本は全国の公共図書館などに寄贈した。

計　４，０００，０００円

［スポーツによる教育：ゴルフアカデミー］

この事業は、現在は休止している。

Ⅱ．処務の概要

1.　役員に関する事項

【 理　事 】

（平成31年３月31日現在）

	氏　　名	区 分	就任年月日	現　　職　　等	備　　考
理事長	大脇 直人	常　勤	平成30・5・31	オンキヨー㈱ 名誉会長	平成22・12・9
理　事	赤羽 正已	非常勤	〃	㈱プロストホールディングス 代表取締役	〃 18・ 4・1
〃	大脇 宗徳	非常勤	〃	オンキヨー㈱ 代表取締役社長	〃 22・12・9
〃	岡本 行夫	非常勤	〃	(株) 岡本アソシエイツ代表取締役	〃 23・ 4・1
〃	加藤 治文	非常勤	〃	東京医科大学 名誉教授	〃 30・5・31
〃	高 﨑　健	非常勤	〃	東京女子医科大学 名誉教授	〃 28・5・26
〃	竹田 幸男	非常勤	〃	㈱文理 元専務取締役	〃 18・ 4・1
〃	椿　　勲	非常勤	〃	椿勲公認会計士事務所 代表 常任理事	〃 22・12・9
〃	土井 浩信	非常勤	〃	淑徳大学 名誉教授	〃 12・ 4・1
〃	中村 育夫	常　勤	〃	東京女子医科大学 元事務部	〃 28・5・26
〃	福岡 政行	非常勤	〃	東北福祉大学 特任教授	〃 22・12・9
〃	森　　勇	常　勤	〃	㈱上総モナークカントリークラブ 前代表取締役 常任理事　事務局長	〃 24・5・28

（備考欄：初任年月日）

① 平成30年5月31日開催の定時評議員会において、新任理事１名と任期満了に伴う重任11名について、理事選任の決議が行われた。6月8日付けで東京法務局での理事変更登記の手続きが完了し、6月29日付けで内閣府に変更届出書を提出した。

② 平成30年5月31日開催の理事会において、代表理事（理事長）の選定を行い、6月8日付けで東京法務局での代表理事変更登記の手続きが完了し、6月29日付けで内閣府に変更届出書を提出した。

【 監　事 】

（平成31年３月31日現在）

監 事	大平 健司	非常勤	平成30・5・31	大平健司公認会計士事務所代表	平成23・ 4・1
〃	近田 直裕	非常勤	〃	近田公認会計士事務所 代表	〃

（備考欄：初任年月日）

○　平成30年5月31日開催の定時評議員会において、任期満了に伴う重任２名について、監事選任の決議が行われた。6月8日付けで東京法務局での監事変更登記の手続きが完了し、 6月29日付けで内閣府に変更届出書を提出した。

【 評 議 員 】

（平成31年３月31日現在）

	氏　　名	区 分	就任年月日	現　　職　　等	備　　考
評議員	大脇 時久	非常勤	平成28・5・26	オンキヨー㈱ 元会長	平成22・12・9
〃	岡田 八郎	非常勤	〃	上総ﾓﾅｰｸｶﾝﾄﾘｰｸﾗﾌﾞ 元代表取締役	〃 22・12・9
〃	佐藤 貢悦	非常勤	〃	筑波大学 教授	〃 12・ 4・1
〃	西村 正宏	非常勤	〃	㈱ キバンホールディングス 代表取締役	〃 28・5・26
〃	畑　史 郎	非常勤	〃	㈱文理 前代表取締役会長	〃 28・5・26
〃	北條 良彦	非常勤	〃	オンキヨー㈱ 元特命担当	〃 23・ 4・1
〃	丸山 敏秋	非常勤	〃	一般社団法人倫理研究所理事長	〃 15・5・23

（備考欄：初任年月日）

○　平成28年5月26日開催の定時評議員会において、評議員選任の決議が行われ、平成28年6月8日付けで東京法務局に評議員変更登記の手続きを完了し、7月5日付けで内閣府に変更届出書を提出した。

2. 役員会に関する事項

(1) 理 事 会

開会年月日	議 事 事 項	結 果
30年 5月16日	1) 平成29年度事業報告及び収支計算書類等の承認の件 2) 第10回(通算110回)定時評議員会招集の件 3) 理事・監事の改選につき、候補者名簿を評議員会へ提案する件	原案通り可決承認 〃 〃
30年 5月31日	1) 代表理事(理事長)、会長の選定の件 2) 常任理事の選定の件	代表理事、会長に大朏直人、常任理事に森勇、椿勲を選定
31年 3月26日	1) 2019年度事業計画及び収支予算案並びに資金調達及び設備投資の見込みの承認の件 2) 諸規程の改訂について	原案通り可決承認 〃

(2) 評議員会

開会年月日	議 事 事 項	結 果
30年 5月31日	1) 平成29年度財務諸表(計算書類等)の承認の件 2) 理事の任期満了に伴う改選の件 3) 監事の任期満了に伴う改選の件	原案通り可決承認 再任11名、新任1名 再任2名

3. 寄付金に関する事項

寄付の目的	寄 付 者	申込金額	領収金額
助成等事業推進	個 人 大 朏 直 人	16,500,000	16,500,000
〃	株式会社 文 理 (代表取締役社長 山川博昭)	500,000	500,000
	合 計	17,000,000	17,000,000

平成３０度事業報告 附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第３４条第３項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はない。

令和元年５月１３日

公益財団法人　日本教育科学研究所